

# 製品安全データシート

## 1.製品名及び会社情報

製品名：ポリプロピレン樹脂押出成型品

会社名：有限会社 東洋産業

住 所：東京都三鷹市井口 3-9-27

担当者：鈴木茂一

電話番号：0422-31-7305

作成・改訂：平成 22 年 11 月 2 日

## 2.組成・成分情報

単一製品・混合物の区別：混合物

成分及び組成	CAS 番号	含有量 %	既存/新規化学物質		PRTR 法				安衛法 (第 57 条の 2)	
			官報公示番号		種別	番号	名称	含有量 %	番号	名称
			化審法	安衛法						
ポリプロピレン	9003-07-0	69.5	6-402		該当しない					
炭酸カルシウム	471-34-1	30	1-122	公表						
[顔料]カーボンブラック	1333-86-4	0.5	5-5222							

## 3.危険有害性の要約

危険有害性：特記事項なし

人体への影響：特記事項なし

環境影響：製品の適正使用・適正廃棄による悪影響は特に無いと思われる。

物理的及び化学的危険性：特記事項なし

## 4.応急処置

吸入した場合：溶融樹脂や樹脂の熱分解物から発生したガスを吸入して気分が悪くなった場合には患者を新鮮な空気のある場所に移し、症状に応じて医師の診断を受ける。

皮膚に付着した場合：特に問題は無いが、切り屑や切り粉等は水で洗い流す。高温溶融物が付着した場合は、流水をかけるなどして充分冷却し、火傷の手当てを行う。症状に応じて医師の診断を受ける。

目に入った場合：切り屑や切り粉が入った場合は、指先などで擦ると物理的に眼球を傷つける恐れがあるので、直ちに清浄な水で洗浄する。症状に応じて医師の

診断を受ける。

飲み込んだ場合：切り屑や切り粉は体内では消化、吸収されないため、出来るだけ吐き出す。異常がある場合は医師の診断を受ける。

---

## 5.火災時の処置

消火剤：水、炭酸ガス、粉末消火剤、泡消火剤等

消火方法：保護具を着用して風上から消火。

消火を行う者の保護：防火服と呼吸用保護具を着用。

特別な注意：一酸化炭素などの有害ガスが発生する恐れがあります。

---

## 6.取扱い及び保管上の注意

取扱い上の注意：

切削加工など、切り粉が発生する作業を行う際は、集塵設備を設けるか、防塵マスク・保護眼鏡などを着用。

端材の減溶など、製品を加熱溶融する作業では、条件によっては樹脂の熱分解ガスが放出されることがあります。十分な換気を行う(または局所排気設備を設ける)とともに、必要に応じて有機ガス用のマスクを着用して下さい。

水、酸、アルカリには安定ですが、アルコール系以外の有機溶剤・石油類には侵されます。直接、またはこれらの蒸気に触れないよう注意して下さい。

保管上の注意：

適切な保管条件：高温多湿、直射日光を避け、換気の良い冷暗所に保管し、火気、静電気を避ける。

---

## 7.物理的及び化学的性質

物理的状态：常用の条件下では固体

形状：押出成形品

色調：黒

臭い：無臭

融点：約 100 から約 220 で徐々に軟化

沸点：なし

揮発性：なし

溶媒に対する溶解度：水に対する溶解性無し。水、酸、アルカリ・アルコール系溶剤には不溶。その他の有機溶剤・石油類には溶解又は膨潤・変形する。

---

## 8.安全性及び反応性

安定性：通常条件下では安定

混合禁止物質：なし

分解生成物：燃焼させた場合、一酸化炭素等有害なガスが発生する可能性がある。

---

#### 9.有害性情報

刺激性：通常条件では無し。高温で分解し発生したガスは、喉、目、鼻を刺激することがある。

急性毒性：データ無し。

慢性毒性：同上

変異原性：同上

発ガン性：同上

---

#### 10.環境影響情報

通常条件では特に影響を及ぼすとは思われない。

---

#### 11.廃棄上の注意

廃棄物の処理及び清掃に関する法律及び自治体の法規に準拠し、焼却又は埋立て、及び再生処理施設等へ処分する。

---

#### 12.輸送上の注意

製品の傷つきや欠けを防ぐため乱暴な取り扱いを避ける。荷崩れなどに注意する。

---

#### 13.適用法令

労働安全衛生法：該当しない。

P R T R法：該当しない。

消防法：該当しない

毒劇物取締法：該当しない。

---

#### 14.その他の情報

本製品は再生ポリプロピレン樹脂混合による押出成型品です。

発行 2010年11月 第一版

本書の記載内容は現時点で入手できる資料・情報・データに基づき作成しておりますが、記載内容に関してはいかなる保証をなすものではありません。また、注意事項は通常の取扱いを対象としたもので、特殊な取扱いの場合には用途用法に適した安全対策を施してご利用下さい。尚、化学物質の有毒性には予見できないこともありますので、取扱いには十分ご注意下さい。